



プレスリリース

平成 27 年 7 月 30 日 14:00

府政記者クラブ 会員各位
河南記者クラブ 会員各位
大阪科学・大学記者クラブ 会員各位

地球温暖化が進行した未来の栽培環境を創り出す実験装置が完成 — 地球温暖化環境が農作物に及ぼす影響と対策技術を検証 —

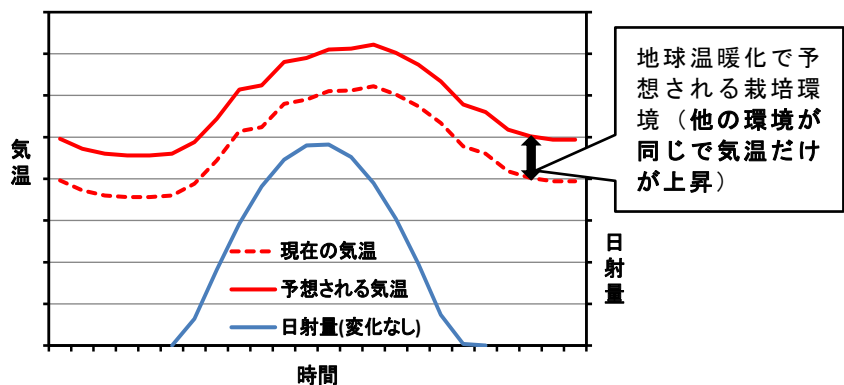
環境農林水産総合研究所では、地球温暖化対策技術の開発に向けた新兵器として、地球温暖化が進行した時点での農作物の栽培環境を装置内に創り出せる「周囲温湿度追従型的人工気象栽培装置」を3棟設置しました。

これまでの人工気象栽培装置では、周囲の環境とは関係なく温湿度等が一定に制御され、まさに人工的な環境下での実験しかできませんでした。今回設置した人工気象栽培装置では、晴れたり曇ったりする実際の日照や湿度の時間変化を周囲の環境と同じにして、気温だけ上昇させた状況、すなわち、地球温暖化が進行した未来の気象条件を装置内に創り出すことができます。それにより、温暖化の進行度合いに応じて農作物が受ける影響や、対策技術の効果を検証することができます。

地球温暖化が進行すると、農作物の収穫量減や品質劣化など深刻な影響が現れ、農業経営に大打撃を与えることが懸念されます。

大阪府内でも、夏の高温化により水ナスのつやが失われたりブドウが着色不良になるなど、すでに様々な問題が発生し、対策が強く望まれています。

今後は、新しい栽培装置を農作物の高温障害対策技術開発に活用し、大阪府の農業振興に貢献してまいります。



新栽培装置で創り出せる地球温暖化が進行した栽培環境



新設した周囲温湿度追従型人工気象栽培装置